

マルチプレフィックス技術による可能性

2006年11月21日

株式会社インテック・ネットコア

IPv6研究開発グループ

北口 善明

kitaguchi@inetcore.com



● IPv4の継承と発展

- 基本的にIPv4で出来ることを継承
- マルチキャストやIPsecが標準に
- しかしIPv6ならではの機能には乏しい

● IPv4との大きな違いは？

- 圧倒的に豊富なIPアドレス数
- 128ビット長 → 約340^{かん}潤個 (潤=10³²)
- 様々なノードがネットワークに繋がることを可能に
 - 非PC機器のネットワーク参加 (All IP化)
- 1つのノードに対して複数のアドレス利用が前提
 - リンクローカルアドレス
 - グローバルアドレス、一意なローカルアドレス (ULA)

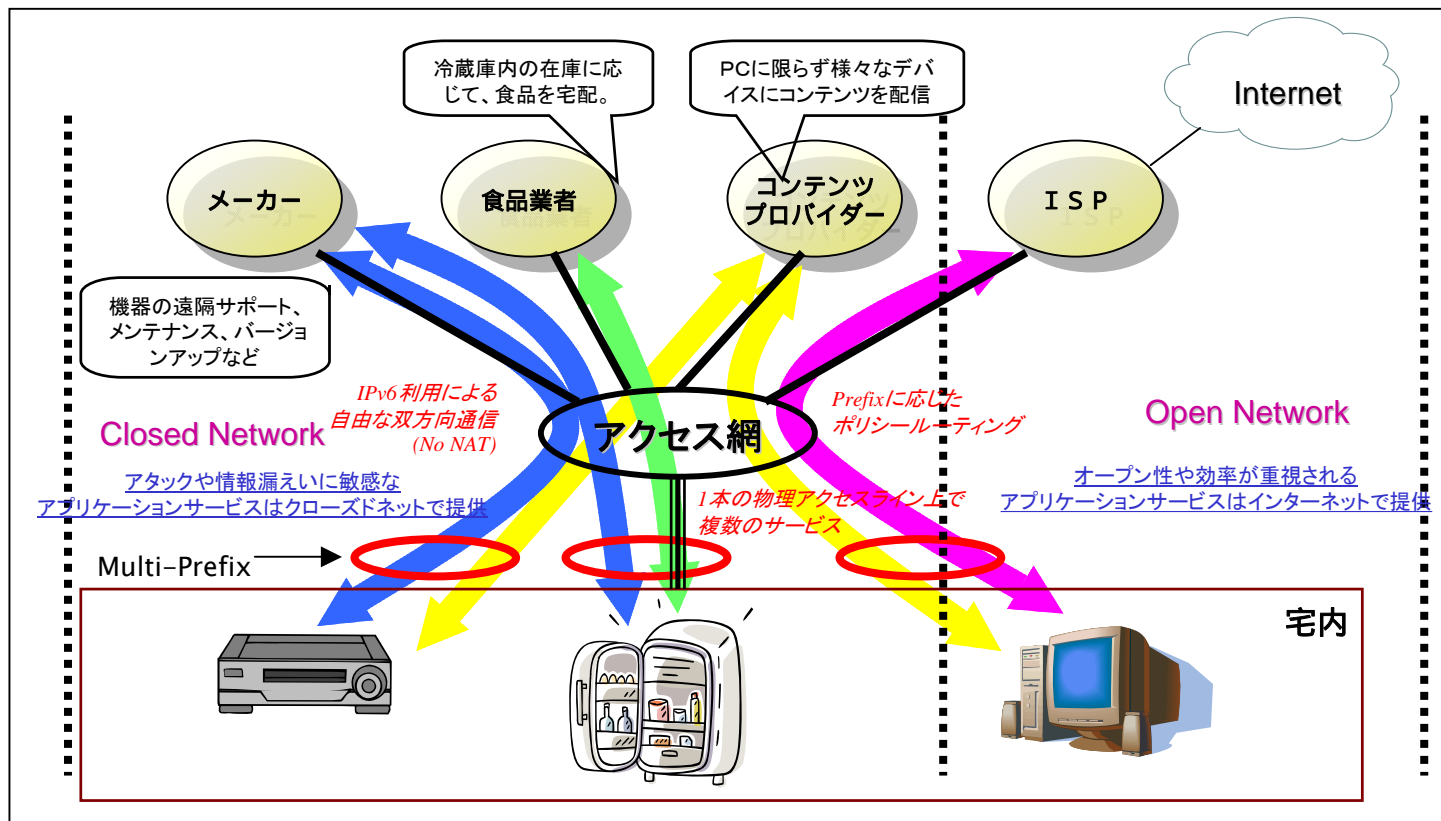
● IPv4でできなかった技術として

- マルチプレフィックスなんてどうでしょう



IPv6マルチプレフィックス

- 1つのネットワーク内で複数のIPv6アドレスを利用する技術
 - サービス毎にIPv6プレフィックスを配布しコントロール
 - 複数のサービス網を1つの端末/ネットワークで利用可能
 - ネットワーク層における多重論理ネットワーク



● 常川様

● IPv6移行実証実験によるマルチプレフィックスの有効性

昨年度実施されたIPv6移行実証実験で利用されたマルチプレフィックス技術（MPMH技術）を中心に有効性について

● 藤井様

● マルチプレフィックスを利用したネットワークのコストシェアモデル構築の可能性

マルチプレフィックス技術の応用例として検討されているネットワークのコストシェアモデルについて

● 松本様

● IPv6協議会でのマルチプレフィックスの検討状況

IPv6協議会における「マルチプレフィックスSWG」で現在議論されている内容を中心とした標準化動向について

● 川島様

● ブロードバンドルータメーカーにおけるマルチプレフィックス検討状況

製品化に向けたメーカーの取り組みやメーカーが持つマルチプレフィックス技術への期待感について



● < 当日記入 >



まとめ

- < 当日記入 >

